

# 田島正樹先生を送る

高橋 久一郎

田島正樹先生をお送りする時が来てしまった。

田島さん（以下、いつものように、そして敬愛の念とともに「さん」と呼ばさせていただきたい）が千葉大に赴任されたのは二〇〇七年の十月であるから、七年余を同僚として過ごしたことになる。この7年という期間はそれほど長い時間とはいえないが、実は田島さんを私が（一方的にはあるが）知ったのは四十年近くも前である。思い出話から始めたい。

そのころ田島さんは、ユーモアを交えながら先生たちとも快活に、それぞれか激しく議論する大学院の博士課程の学生であった。今時、「白晳の美青年」といった言い方をすれば皮肉に聞こえるかも知れないが、田島さんはまさに白晳の美青年であった。そんな田島さんを畏敬と憧れとともに学部部の学生だった私は見ていた。

田島さんは、私が博士課程に進学した時にはすでに就職していて、同じ授業に出席することはほとんどなかったように思うが、あれこれと「武勇伝」というか何というか、田島さんについての噂は聞いていたから（そして、30年近く前に駒場で当時の大学院生たちを中心にして始まり、今もまた継続している、その日だけは田島さんが減多なことでは他の予定を入れない金曜日の読書会に同席する機会が私にもあったから）、近くにいるような感じがしていた。それ以来、どこか近くにいる畏怖すべき先輩という思いと共に田島さんはいた。ここ数年、再び駒場で読書会と私の非常勤の日取りとが一致して（もちろん正確には一致させて）読書会にもできる限り参加するようになったから、ますます、そうした場で示される田島さんの哲学への姿勢に、改めて尊敬の思いを抱いている。

こうした場での田島さん議論の仕方は、年長者らしい自ずからなる風格を漂わせるようにはなったが、今も学生の頃と変わらない。問題の中心に一気

に「切り込む」。一瞬呆気にとられ、「もっと手前のところで話そうよ」と思うこともある。「根本」に立ち返ることを唱道する哲学の議論といえども、通常はそれぞれの問題ごとに、それなりの前提というか「常識」がある。そんなことは重々承知の上で田島さんはどうしても核心に切り込まないではいられない。こうした姿勢は哲学的な論文だけでなく、時事的な話題についても同様であり、その切り口が鮮やかで巧みな論立てについては、田島さんのブログ『ララビアート』を訪れて見て欲しい。

田島さんは、バイオリンを弾き、詩吟を吟じ、オペラに酔い、そして何よりも哲学を愛する「アマトル」である。そして、繰り返しになるが、その哲学において田島さんは、「哲学事典」を名乗る著書を一人で執筆するほどに、さまざまな問題を愛し論ずる人である。さらに田島さんは、ギリシア哲学が専門であるというわけではないが、ギリシアについても論じ、「哲学はギリシアに始まった」ということを、哲学という営みにおける重要なこととして語っている。それは、田島さんは、「自由な問答」というギリシアの起源にあった個性こそが、知の問いという哲学の営みの普遍性を支えていると考えているからだと思う。だからこそ、田島さんは、かつて先生たちに対してそうであったように、今では学生に対しても教師として指導するだけでなく、ユーモアを交えながら、時に共に哲学する者として激しく議論する。そんな学生との関わり方にも現れているように、田島さんは、時に青年のような恥じらいの表情を見せ、若々しく年齢を感じさせない。その田島さんがそれでも65歳を迎え、退任される。

同席する機会は再び少なくなるだろうが、しばらくは駒場で、そして何年か後にはまた別の場所で、読書会を続けることができますように。

## 田島正樹先生 履歴書

- 1950年 1月13日 大阪市に生まれる。
- 1968 3月 都立日比谷高校卒業
- 1968 4月 東京大学 教養学部文科 I 類 入学
- 1972 3月 同 教養学科フランス科 卒業
- 1972 4月 同 教養学科科学史・科学哲学科 学士入学
- 1973 3月 同 中途退学
- 1973 4月 東京大学 人文系大学院哲学専攻課程 修士課程 入学
- 1976 4月 同 博士課程 進学
- 1980 3月 同 博士課程  
単位取得退学
- 1980 4月 日本学術振興会 奨励研究員 就任（1年間）
- 1980 4月 東京薬科大学 兼任講師就任（哲学担当）
- 1981 4月 同 講師就任（哲学）
- 1985 4月 同 ドイツ語講師兼任（哲学・ドイツ語）
- 1992 4月 東北芸術工科大学 助教授就任（哲学・記号論担当）
- 1996 4月 同 教授（哲学・記号論・倫理学・西洋  
演劇史担当）
- 2007 10月 千葉大学文学部 教授就任

### 学位

教養学士（1972年 3月）

文学修士（1976年 3月）

### 学会

哲学会会員（1976年 4月）

日本哲学会会員（1985年）

以上

田島正樹先生 業績表 (★は単著)

- 1975 修士論文「知識論序説——先験的諸範疇をめぐって——」
- 1977 「真理——ジャック・ラカンとエドガー・ポーの主題によるファンタジック・ラブソディー」(東大教養学科フランス科『アルゴ』第10号所収p-76~85)
- 1978 「真理についての試論」(『哲学雑誌』「ギリシア哲学の研究」所収 後に『魂の美と幸い』に所収。)
- 1981 「自由意志について」(哲学会発表)
- 1985 「秘境」(木鐸社『木鐸』No. 26)
- 1987 『人間的秩序——法における個と普遍——』(木鐸社) 共著
- 1987 『メタ・バイオエシックス』(日本評論社) 共著
- 1987 「自由論断章——スピノザの場合——」(『創文』7月号所収p-33~40)
- 1987 「スピノザのスピノザ」(『現代思想』9月号所収)
- 1988 「ヘーゲルの鳥モチ」(『理想』後に『魂の美と幸い』に所収)
- 1988 (翻訳) マイケル・オークショット『政治における合理主義』(劉草書房) 共訳
- 1989 *The Problem of the Problem* (東京薬科大学一般教養研究紀要p-33~40)
- 1990 『物語』(岩波書店) 共著
- 1991 「フェミニズムを巡るポジションエチュード」(東京薬科大学一般教養研究紀要p-63~73)
- 1993 「魂の美と幸い——ブリタニア派遣軍司令官ユリウス・アグリコラに宛てられたローマ市民の手紙——」(東北芸術工科大学紀要 後に『魂の美と幸い』に所収)
- 1994 「アリストテレス倫理学ノート」(『哲学雑誌』「正義と幸福」所収)
- 1995 (童話)「ランダウの奇跡」(ペンネーム八十島幸子で『ars』2号に発表p-36~50)
- 1995 「カント哲学入門の手引き」(東北芸術工科大学紀要)
- 1996★『ニーチェの遠近法』(青弓社)

- 1996 「アリストテレス自然学ノート」(東北芸術工科大学紀要)
- 1996 「社会主義の問題は解決済みか?」(『創文』5月号所収p-6~9)
- 1997 「歴史的真理について」(東北芸術工科大学紀要p-150~161)
- 1998★『哲学史のよみ方』(ちくま新書)
- 1998★『魂の美と幸い』(春秋社)
- 1998 『性・暴力・ネーション』(頸草書房) 共著
- 1998 「ヘーゲル『精神現象学』ノート」(東北芸術工科大学紀要p-184~206)
- 1999 「ガンディーの真理」(春秋社『春秋』1月号巻頭エッセーp-1~3)
- 1999 「分析論的領域と説明概念」(東北芸術工科大学紀要p-112~118)
- 1999 「紳士二人正々堂々時局を論じてあひ譲らず」(『ars』5号所収)
- 1999 「ハイデッガー全集48巻『ニーチェ、ヨーロッパのニヒリズム』書評」  
(『読書人』7月号 所収)
- 1999 「須藤訓任『ニーチェ』書評」(『読書人』11月号 所収)
- 1999 「存在について——その思惟と直観——」(哲学会発表)
- 2000 「分析論的領域と説明概念(承前)」(東北芸術工科大学紀要p-170~176)
- 2000 「野矢茂樹『哲学・航海日誌』書評」(東大教養学部『哲学・科学史論叢』2号所収)
- 2001 「批評のアクチュアリティ」(『美術評論2001』所収)
- 2001 「分析論的領域と説明概念(承前)」(東北芸術工科大学紀要p-152~160)
- 2001★『スピノザという暗号』(青弓社)
- 2002 「映画『マトリックス』にみる“リアル”な世界への飛翔」(アエラムック『現代哲学がわかる』所収 のちに『神学・政治論』に所収)
- 2002 「自由人の教育」(東北芸術工科大学紀要p-144~178)
- 2002 『事典哲学の木』(講談社) 共著(歴史、弁証法の項担当)
- 2002 『柄谷行人初期論文集』書評「はじまりの宗教批判」(『文学界』6月号所収)
- 2003 「暴力について」(『文学界』8月号所収)
- 2003 「「リアルなもの」への渴望」(労働教育センター『子どもと健康』74

- 号所収p-34~38)
- 2004 「小説という課題にどう向き合うか——辻原登論——」(『文学界』3月号p-292~302)
- 2004 テーマレクチャー「美のアイデアをめぐる手紙」(哲学若手研究者フォーラム論文集『哲学の探求』32号所収)
- 2004 「大森壮蔵——恩師の言葉」(『文学界』12月号所収)
- 2005 「スピノザの『反実在論』」(スピノザ協会年報『スピノザーナ』6号所収)
- 2006★『読む哲学事典』(講談社)
- 2006 「呼応と回帰」(講談社『本』6月号所収p-55~57)
- 2006 『現代倫理学事典』(弘文堂)共著(担当執筆箇所 奴隷p-651~652、独裁p-644、自己満足p-356、デカダンスp-607~608、忍耐p-670~671、狂信p-183、理性p-860~861、モンテーニュp-832、『パンセ』p-688~689、『エッセー』p-830~831)
- 2006 『公共性の法哲学』(ナカニシヤ出版)共著
- 2007 「ビジテリアンのイデオロギーとユトピア—宮沢賢治『ビジテリアン大祭』をめぐる—」(宮沢賢治研究Annual vol. 17 2007所収 のちに『神学・政治論』に所収)
- 2009 「永井均『子供のための哲学対話』解説」(講談社文庫)
- 2009★『神学・政治論—政治哲学としての倫理学—』(勁草書房)
- 2010 「偏屈者たちのニーチェ」(『ニーチェ入門』河出書房新社 所収)
- 2011★『正義の哲学』(河出書房新社)
- 2011 「はじまりもなく終わりもない」(『思想としての3・11』河出書房新社) 所収)
- 2012 「野矢茂樹『心と他者』解説」(中公文庫)
- 2013★『古代ギリシアの精神』(河出書房新社)
- 2013 『子供の難問』(中央公論新社) (「好きになるってどんなこと?」「悪いことって何?」「神様っているのかなあ?」担当)
- 2013 「真理の再生」(哲学会シンポジウム)
- 2014 「反実在論的真理観」(哲学雑誌「真理の再生」所収)

田島正樹先生を送る

2014 「公共性を支える非政治的倫理」(『近代日本の公と私、官と民』NTT  
10月出版予定 所収)

なお2006年から山形新聞コラム「ことばの杜」担当(2006カヴァァイス、  
2007モンテーニュ、マキャヴェリ、アドルノ、聖書(ザークイ)、ホメロス、  
2008チェスタトン、プルターク(英雄伝)、唯円、兼好、ドストエフスキー、  
大西巨人、藤田省三、2009年福沢諭吉、フローベール、シェークスピア、  
バルザック(ゴリオ爺さん)、ヘロドトス、シュティフター、2010ダンテ、  
ゲオルゲ、トーマス・マン、アポリネール、宮沢賢治、ツキユディデス、  
2011プルースト、マラルメ、白楽天、小坂修平、中原中也、モーツァルト、  
2012シューベルト、ステイーブ・ジョブズ、世阿弥、メリメ、聖書(ペテ  
ロの否認)、バルザック(幻滅)、プルタルコス(食卓歓談集)、2013ヘルダ  
リン、アウグスティヌス、マルクス、ニーチェ、坂口安吾、水村美苗、ピア  
ティゴルスキー、キーツ、紫式部、アヌイ、チャーホフ)